

# 名蔵湾保護水面調査

渡辺利明、勝俣亜生

本調査は名蔵湾保護水面管理事業の一環として実施したものであり、調査結果は既に「昭和57年度保護水面管理事業調査報告書 沖水試資料No.69」に報告したので、ここでは要約を示す。

- (1) 海草の生育密度の季節変化を調べるため、藻場内に方形枠を3ヶ所設置し毎月枠内のリュウキュウスガモとリュウキュウアマモの株数を計測した。一年を通しての調査で夏期に密になり、冬期に疎になるという傾向が両種ともみられたが、6～8月の欠測があるので次年度以降の継続調査が必要であろう。
- (2) 植物食性魚の重要な餌料となる海草の付着藻を毎月調べた。種組成は前年度とほとんど変わらず、イバラノリとワツナギソウが周年みられ、冬オキナワモズク、カゴメノリが繁茂した。
- (3) 1982年8月19日、20日に藻場調査を実施した。保護水面内の藻場は約10.5haあり、5年前からほとんど変わっていなかった。藻場の主要構成種は、リュウキュウスガモ、ベニアマモ、ウミジグサの3種であった。また各種の生育状況の考察をした。
- (4) 1982年6月14日から19日までの5日間、例年実施している柵網漁獲試験を行なった。5日間の操業で計48種、148個体、108.7kgの漁獲があった。ヒメツバメウオ、ニセクロホシフエダイ、モンツキアカヒメジなどが多獲種であった。
- (5) フェフキダイ類幼魚生態を調べるため、1982年5月17日から10月18日まで追い込み網漁獲試験を11回行なった。また生息密度を調べるための目視調査も同時に行なった。保護水面内の藻場に出現するフェフキダイ類のうちイソフエフキが優占的であったが、他に7種程出現した。フェフキダイ類幼魚の生息密度は、6月後半～8月初め頃までが最も高くなり、4.3～6.3尾/100㎡であった。また、イソフエフキの藻場での主要餌料は多毛類であった。
- (6) 1982年6月9日、保護水面内の藻場で底生動物の採集をした。今年度は0.5mm目の細かいふるいを使用したので以前の採集では漏れていた線虫類が多かった。
- (7) 1982年5月4日にヒューム管魚礁の、8月31日に1.5m角型魚礁の蛸集魚調査を実施した。ヒューム管魚礁は埋没がひどく蛸集魚は少なかった。1.5m角型魚礁では、タカサゴ・イッセンタカサゴ・ヨスジフエダイ・ニセクロホシフエダイの幼魚とクロリボンズズメダイなど多数の蛸集魚を観察した。
- (8) 1982年4月16日、7月14日、11月26日及び1983年1月24日の4回、水質調査を行なった。